

「令和6年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より

1 令和6年度いじめの状況について

(1) 認知件数の推移			(単位:件)				
区分			R2年度	R3年度	R4年度	R5年度	R6年度
小学校			773	715	779	817	784
前年度増減			-	▲ 58	64	38	▲ 33
中学校			88	62	102	154	168
前年度増減			-	▲ 26	40	52	14
小・中合計			861	777	881	971	952
前年度増減			-	▲ 84	104	90	▲ 19
1,000人 当たり	小学校	全国	66.5	79.9	89.1	96.5	101.9
		全道	67.3	80.3	124.9	184.8	188.6
		本市	260.3	247.0	266.0	284.3	272.8
	中学校	全国	24.9	30.0	34.3	38.1	42.6
		全道	22.4	24.2	36.0	50.7	58.1
		本市	54.3	37.5	63.6	103.0	112.4

(2) いじめの発見のきっかけ(12項目から1つの項目を選択した内容)				
区分	順位	内容	件数(件)	構成比(%)
小学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見した	689	87.9%
	②	本人からの訴え	63	8.0%
	③	当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	17	2.2%
	④	学級担任が発見した	5	0.6%
	⑤	保護者(本人の保護者を除く)からの情報	4	0.5%
	⑥	学校以外の関係機関(相談機関を含む)からの情報	4	0.5%
	⑦	児童生徒(本人を除く)からの情報	2	0.3%
中学校	①	アンケート調査など学校の取組により発見した	157	93.4%
	②	当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	5	3.0%
	③	本人からの訴え	3	1.8%
	④	学級担任が発見した	2	1.2%
	⑤	児童生徒(本人を除く)からの情報	1	0.6%

(3) いじめの態様 主な要因(9項目から複数回答の内容)				
区分	順位	内容	件数(件)	構成比(%)
小学校	①	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	446	40.6%
	②	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする	239	21.8%
	③	仲間はずれ、集団による無視をされる	168	15.3%
	④	ひどくぶつかられたり、たたかれたり、蹴られたりする	109	9.9%
中学校	①	冷やかしかからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	112	57.1%
	②	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをしてたたかれたり、蹴られたりする	27	13.8%
	③	仲間はずれ、集団による無視をされる	14	7.1%
	④	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられたりする	11	5.6%
	⑤	パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる	11	5.6%

※ 要因の割合の高い順について4番目までを掲載しているため、全体の合計は100%と
ならない

(4) いじめ重大事態発生件数				(単位:件)
区分		小学校	中学校	計
法第28条第1項第1号に規定する重大事態		0	0	0
法第28条第1項第2号に規定する重大事態		1	1	2

(5) 学年別件数												(単位:件)
小学校							中学校				合計	
1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	計		
135	209	155	110	94	81	784	92	50	26	168	952	

・ いじめの認知件数は、前年度比で小学校が33件減少している一方で、中学校は14件の増加、全体数では19件減少の952件となっている。

・ いじめの積極的な認知に向けた取り組みとして、教育支援主事が学校訪問を行った際に、いじめ防止対策推進法や基本方針の取扱いについて確認している。また、いじめの調査等において考え方の確認を行っているほか、校長会研修会でいじめの対応について講義を行っている。

・ 学校いじめ対策組織による組織的な対応に向けた取り組みとして、各学校にいじめ対応ガイドブック・支援ツール「コンパス」(北海道教育委員会作成)を積極的に活用するよう指示し、教職員サマーセミナーにおいて「コンパス」を活用した研修を実施している。また、学校と教育委員会が連携し組織的な対応を行っている。